

# 愛の友協会後援会長賞

京都府／51歳／女性／看護師

すずき みちこ

鈴木 美智子 様

✉手紙の相手：母

お母さん、聞いてくれる？物を捨てるのが苦手な私にも、時に良い事が起こります。

二人家族の私達にとって、小学六年の修学旅行は、初めて離れ離れに過ごした三日間。

お母さんと、涙の握手を交わし、出発した事、初日の夜、サプライズで受け取った親からの手紙に、プチホームシックとなった皆と返事を書いた事、未だによく覚えています。

何と、その手紙が、セットで残っていたの。

携帯やパソコンが無い当時、全盲のお母さんが晴眼者に文章を伝えるには、「カナタイプ」を使っていたね。カナタイプは、読み直しが出来ず、どこまで打ったかを覚えながらの作業で、相当の集中力が必要だったよね。

その、カナタイプで書かれた手紙には、お母さんの愛が溢れ出ていました。

「(前略)オカアサンハ トテモ シアワセデス ミチコミタイナ

イイコヲ モツテ ホントウニ カクシキレナテマチガエタカラアト  
ノブンニ ツツケテネ ココカラヨ ハイ ホントウニ ウレシクテ  
カクシキレナイホドノ オカアサンノ ジマンノ ミスメ ワタシ  
ノ ムスメ(後略)」

今、読み返しても、感動で涙しそうなのに、肝心な所での打ち間違いに、吹き出してしまい、泣き笑いに変わったよ。流石お母さん。きつと、幾度となく書き直した末、「美智子、ちよつと間違えたけど許して」と、私に甘えたのだと推測しました。当たってる？

これ程までに、書き手が緊張し、読み手にも緊張が伝わる、愛と感動と笑いに満ちた手紙は、後にも先にも、生涯この一通限り。

この手紙が見つかったのは、天国四年目のお母さんからのサプライズプレゼントかな。

又一つ、私を元氣付ける宝物が増えました。

お母さんから受け取った、数え切れぬ程の愛に、いつも感謝しながら、今後も与えられた人生を一步一步進んでいくからね。

お母さん、これに味を占めた私の断捨離への道は、更に遠のきそうです。ではまたね。

✧手紙への想い✧

「母がいたら二人でどれだけ大笑いしただろう」と思いながら書きました。願わくば、母のいる時に見つけたかった手紙でした。